

なつあよ

2014 夏  
SUMMER



奈良教育大学イメージキャラクター  
「なっきょん」

奈良教育大学 広報誌

NARAYAMA

NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S  
SEASONAL PUBLICATION

<題字>名誉教授 池田 桂鳳

特集

新機能満載！

図書館  
リニューアル

羅針盤

～夢の実現を応援～

奈教の教員採用試験受験支援

クローズアップ

子どもの身近な地域と植物に着目する  
岩本廣美教授

ラボ・レター

家庭科教育 鈴木洋子研究室

なっきょん's CLUB 企画

奈教のひみつ

～教師力サポートオフィス～



## CONTENTS



02



06



09



15



17

## 2 特集 新機能満載！ 図書館リニューアル

6 羅針盤  
～夢の実現を応援～  
奈教の教員採用試験受験支援

9 クローズアップ  
子どもの身近な地域と植物に着目する 社会科教育講座 岩本廣美教授

12 ラボ・レター  
家庭科教育 鈴木洋子研究室

13 ひと・あれ・これ  
各現場で活躍する教職大学院修了生

15 なつきょん's CLUB企画  
奈教のひみつ ～教師力サポートオフィス～

17 留学生レポート  
ロックヘイブン大学 (アメリカ) 宮山夏光さんと  
インドネシア教育大学 (インドネシア) クスマワティ ムティアさん

19 キラリ☆奈教生  
「外国人による日本語弁論大会」に出場したルーマニアからの留学生

20 ブカツ魂！  
ギターマンドリンクラブ

20 活躍する奈教生

21 キャンパスニュース

22 奈良に息づく仲間たち

23 奈教生に聞きました！  
4年間でやりたいこと

### 表紙のはなし

## ラーニング・コモンズ

今回の表紙は、写真部の阿形 尚さん（教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻 国語教育専修 2 回生）が撮影した写真です。

「今回の表紙写真は、リニューアルした図書館のラーニング・コモンズにおいて撮影しました。ラーニング・コモンズでは、友達同士話し合いながら課題をしたりグループワークを行うことができるスペースです。ラーニング・コモンズを活用することで、奈良教育大学での学生生活がよりよいものになりそうです。」







# 新機能満載! 図書館 リニューアル

特集

本学図書館が、平成26年4月1日にリニューアルオープンしました。これまでの「静かに本を読む、勉強する」という従来のイメージとは異なる、「グループで議論する、模擬授業をする」などの動的な活動の場としての機能が加わり、学生の皆さんの学習の場が広がりました。



1. 閲覧室
2. リフレッシュスペース
3. ラーニング・コモンズ
4. ディスカッションテーブル
5. えほんのひろば
6. ライぶらりギャラリー





### <情報サテライト室>

学生が自由に使える共同利用パソコンが約30台あります。割り当てられたアカウントを使用して、電子メール、インターネットへのアクセスやレポートの作成をすることができます。また、電子教科書を使うこともできます。



教育学部 学校教育教員養成課程  
理数・生活科学コース 4回生  
すぎもと しゅんいち  
杉本 淳 一さん  
大阪府立刀根山高等学校出身

遅くまで使える上に、台数が多く、また土曜日も開放されているのでとても便利です。授業準備やレポート作成などに活用しています。

### <ライブラリギャラリー>

展示ケースを兼ね備えた、「ぶらり」と見ていただけるギャラリースペースです。学生ボランティアによる展示企画などを、定期的に開催しています。



### <閲覧室>

比較的新しい図書やよく使われる図書が約10万冊あります。これ以外にも約30万冊の図書・雑誌が書庫にあります。閲覧室の座席は、個人で静かに学習する場所で、「図書館」らしい場所です。



大学院 修士課程  
教科教育専攻 2回生  
はっとり あんり  
服部 安里さん

隣席との仕切りがある机が多く配置され、より勉強に集中しやすい環境になったと思います。また、教員採用試験対策に役立ちそうな図書がたくさん用意されています。



教育学部 学校教育教員養成課程  
教科教育専攻 国語教育専修 2回生  
しざき まこと  
芝崎 真聡さん  
私立米子松蔭高等学校出身

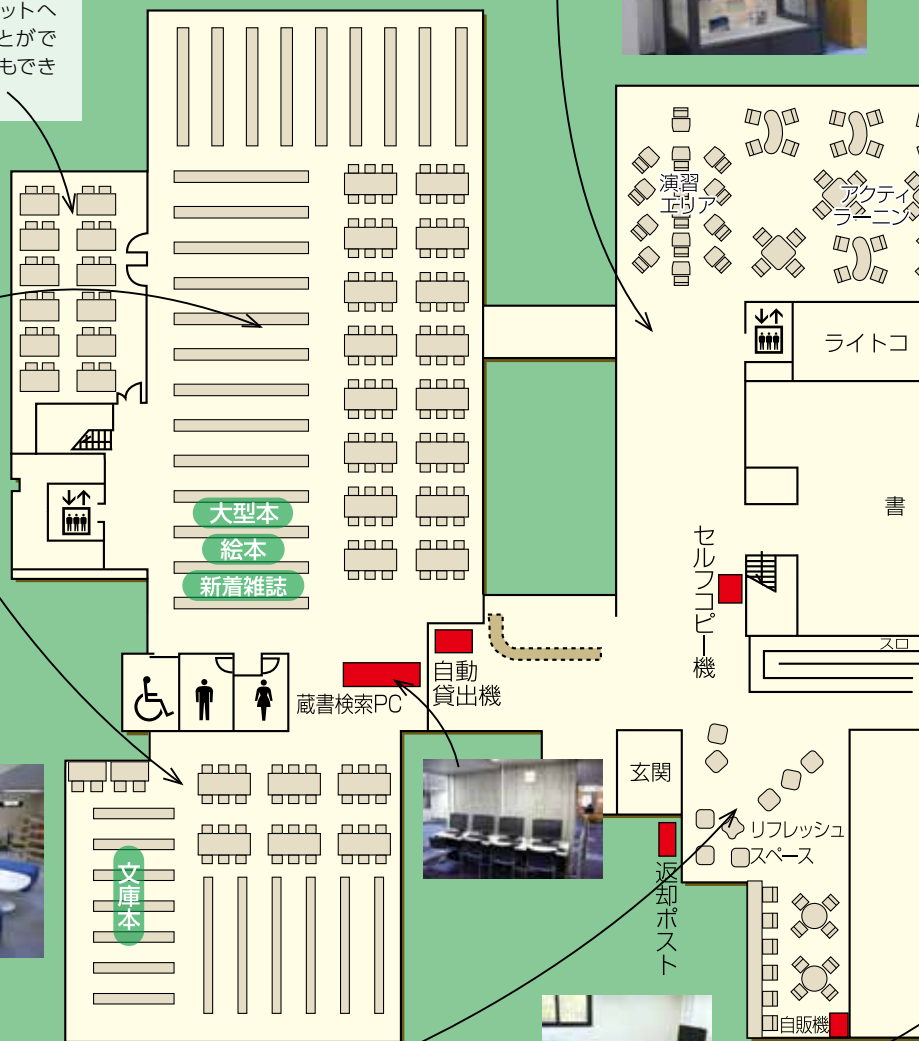
自動販売機が設置されており、飲み物を飲んだり話をしたりすることができるので、息抜きにぴったりです。勉強中に疲れた時などに利用し、リフレッシュしています。

### <リフレッシュスペース>

新聞が置いてある「くつろぎ」の場所です。飲み物の自動販売機もあり、勉強の合間にちょっと休憩するには最適な場所です。窓にいる「なっちゃん」とともに、ゆったり過ごせます。

### <AV室>

DVDを中心に、さまざまな視聴覚資料があります。個人用ブースと少人数で楽しめるソファ席があり、映画を見るだけではなく、語学の学習にも活用されています。



## 館長よりごあいさつ

なかに あきら  
図書館長 中谷 昭

えられてきました。しかし、近年「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブラーニング）への転換」の必要性が叫ばれ（平成25年8月28日中央教育審議会答申）、新たな学修の場として多くの大学図書館にラーニング・commonsが設置されてきました。本学においても、

これまで図書館は、雑誌や図書などの学術情報の収集・提供や、学外の学術情報へのアクセスを支援することが主な機能であると考

昨年行われた図書館の第2期改修工事においてラーニング・commonsを設置しました。ラーニング・commonsは、グループ学習や模擬授業など、多様な学習活動に対応できる空間であり、これまでの一人で静かに勉強するという形態とは全く異なる機能を有しています。しかし、新たな空間を有効に利用していただくためには、大学院生や仲間による学習支援、アクティブラーニングを積極的に取り入れた授業の展開など、学生や先生方のご協力が不可欠です。奈良教育大学の図書館を皆さんとともにより良いものにしていきたいと考えていますので、ご協力ご支援よろしくをお願いします。また多くの方のご来館を心よりお待ちしております。





## &lt;ラーニング・コモンズ&gt;

従来の「静かな図書館」とは違い、自由に動かせるテーブル、イス、ホワイトボードを使って学生同士でグループワークやディスカッションをすることができます。電子黒板を使った模擬授業をすることもできます。



●演習エリア

●アクティブ  
ラーニングエリア●ライティング  
サポートエリア

教育学部 学校教育教員養成課程  
教育発達専攻 心理学専修 2回生  
三木 美弥さん  
私立智辯学園高等学校出身

これまで話し合いができるようなきちんとしたスペースがなかったので、大勢で座れ、ホワイトボードなどもある、このようなスペースができてありがたいです。模擬授業や発表の準備など、グループでの授業準備に活用しています。

## &lt;グループ学習室&gt;

グループで借り切って使用できる部屋です。電子黒板をはじめ、テーブルにタッチ式のディスプレイが埋め込まれた「ディスカッションテーブル」があり、少人数でのミーティングなどに最適です。



大学院 修士課程 教科教育専攻 2回生  
劉 洋さん

大学院生は、学会や研究会発表の準備をする必要があり、研究仲間での準備や発表の練習の場として使用しています。教室よりも静かで、設備も整っているので便利で、議論しやすいスペースです。

## &lt;えほんのひろば&gt;

保育・教育のための幅広い資料として、約3,000冊のさまざまな絵本があります。附属幼稚園、附属小学校との連携だけではなく、学生ボランティアが中心となって地域の子どもたちへの一般公開も行っています。



## &lt;グループ学習室(教材作成室)&gt;

グループで借り切って使用できる部屋です。また、遮音仕様になっており、ビデオカメラをはじめとする撮影機材、照明機材、録音機材があります。動画編集用パソコンを使って、教材を作成することができます。

## &lt;教科書閲覧室&gt;

小学校、中学校、高校の教科書や指導書、学習指導要領など、これぞ教育大学といった資料があります。歴代の検定教科書があるため、みなさんが使っていた教科書があるはずです。



教育学部 学校教育教員養成課程  
教科教育専攻 国語教育専修 3回生  
吉田 尚平さん  
奈良県立郡山高等学校出身

教科書や指導書が1つのスペースにまとめられており、また大きな机がすぐ近くに用意されているので、じっくり資料を確認することができます。ここにも検索用のパソコンが設置されていて便利です。

## 豆知識

## ラーニング・コモンズって…?

「ラーニング・コモンズ」という言葉を聞いても、ピンと来ない方が多いでしょうか。

文部科学省によると「複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」を提供するもの。その際、コンピュータ設備や印

刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する図書館職員によるサービスも提供する。」(文部科学省HP(用語解説)より)となっています。

簡単に言うと、「複数の学生で議論などをしながら学びを進めるために役立つ設備やサービスが用意された場所」のことですね。



## えほんのひろば

「えほんのひろば」は、大学図書館には珍しい絵本の部屋です。古典的な絵本から最新の絵本まで、独自の視点で厳選された約3,000冊の蔵書が自慢です。絵本の一部は表紙を見せて面展示されており、思わず手に取りたくなります。授業でも使用しますが、図書館開館時であれば、学生はいつでも利用できます。室内にはカーペットが敷かれており、リラックスして絵本を見たり、友達とワイワイ読みあったり、絵本のいろいろな楽しみ方ができます。10月からは一般開放も予定しており、地域の子どもたちと交流しながら実践力の向上もめざします。



一般開放に向けて、私たち学生が中心となって、看板や案内を手作りしたり、季節の絵本コーナーなど展示方法を工夫したりするなど、「えほんのひろば」がより楽しく居心地のよい空間になるように環境を整えています。定例の読み聞かせ会のほかにも、クリスマス会など、地域の子どもたちと一緒に楽しむ企画も考えています。



## 図書館展示スペース

## 「ライぶらりギャラリー」

図書館の入り口からラーニング・コモンズへの通路、ここは新しくなった図書館に設けられた展示スペースです。利用者に「ぶらり」と立ち寄ってもらえるようなスペースをイメージして「ライぶらりギャラリー」と名付けられました。

展示ケースは大小あわせて4台。教育資料館では少し規模が大きいか…と感じていた展示も、ライぶらりギャラリーならちょうどいいかもしれませんね。

サークルや専修の作品発表など、図書館を訪れるいろんな方に見ていただくことができます。展示には興味があるけど……という方は、展示企画や運営まで体験できる教育資料館ボランティアとして活躍することもできます。

ライぶらりギャラリーは、図書館の中で「学生が思いどおりに演出できるスペース」です。



## 図書館活用法

## ～資料の入手は貪欲に～

大学での学習・研究においては、必要な資料・データを自ら収集できることが必須のスキルです。その過程では、図書館をいかに活用できるかが重要なカギとなります。

インターネットでさまざまな情報が入手できるようになりましたが、リアルな「紙」でしか手に入れないものは、まだまだあります。

せっかく見つけた資料にもかかわらず、近所の図書館にない。買おうとしても見つからない。そのままあきらめてしまったという経験はないでしょうか。そのような時には、図書館の「相互利用サービス」をぜひご活用ください。

これは、図書館どうしで協力し、お互いが持っている資料の貸し借りやコピーの取り寄せを行うものです。このサービスを利用すれば、北海道から沖縄、さらには海外からも欲しい資料を取り寄せることができます。

このように、学習・研究のために図書館を活用し、ひたすら貪欲になってみてはいかがでしょうか。

ブックハンティングという  
学生参加型のイベントを  
ご存じでしょうか？

学生さんたちが、書店等で直接「大学図書館に置きたい本を選ぶ」選書ツアーです。例えば、今話題の本、卒論・修論用、教養・専攻に関係する本など、自分はもち



ろん、皆に読んで欲しい本を選んでもらっています。

本学では平成22年の「国民読書年」をきっかけに開始しました。大阪のブックフェアまで出かけることもありましたが、奈良駅近くの書店に協力してもらうことが多いです。

図書館に既にある本はせっかく選んでもらっても購入しないことになっているため、決められた予算枠がある中、OPACを検索してから選ぶなど、真剣に取り組んでいます。

購入した本は、一定期間コーナー展示された後、本棚の所定の位置に移されます。背に「ブックハンティング」というシールが貼られていますので、先輩方の選んだ本を追いかけてみる、というのも面白いと思います。

今年度も秋に開催を予定していますので、機会がありましたら是非ご参加ください。

## 図書館概要

<https://libwww.nara-edu.ac.jp/drupal/>

・開館時間：授業期間 月～金 9時～21時  
土 10時～17時

試験期間や教育実習期、休業期などは開館日時が変更になります。詳しくは、図書館のホームページをご確認ください。

・学外の方も、どなたでも事前連絡なしで閲覧・複写ができます。ただし、貸出用カードの発行には条件があります。







# ～夢の実現を応援～ 奈教の教員採用試験受験支援

教員養成大学である本学では、毎年多くの学生が教員採用試験に挑戦します。就職支援室では、そのような「教員になりたい」という学生の夢を叶えるために、キャリアアドバイザーの配置や各種セミナーの実施などさまざまな形で支援しています。

[http://www.nara-edu.ac.jp/campus\\_life/employment/](http://www.nara-edu.ac.jp/campus_life/employment/)

## 皆さんへ メッセージ



学長補佐(就職担当)  
みやした としや  
**宮下 俊也**

奈良教育大学就職支援室は、有能な新人教員を一人でも多く教育現場に輩出することで本学の使命を果たし、同時に「教員になりたい」という学生の夢を叶えることを目的としています。そのために、多彩で懇切丁寧な就職支援活動を実施しています。それは単に教員採用試験に合格させるためだけではなく、採用されてからも学び続ける教師として、永く教育や社会に貢献できる力量を育成するものです。その成果は、教員就職率や正規教員合格率の高さに表れており、卒業生や保護者の皆様から高い評価をいただいています。

また在学中、自分の適性から、保育士な

どの公務員や一般企業への就職に進路が変わることがあるかもしれません。教員志望者のみならず、すべての学生に対して進路の夢を叶えるお手伝いをするのが就職支援室の仕事であり、喜びでもあります。

本年10月に改装される新しいキャリアサロンで、就職支援室員一同、皆さんをお待ちしています。



## キャリアサロン



管理棟内学生支援課の隣に、キャリアサロンを設置しています。キャリアサロンでは、就職に関する資料を取りそろえており、自由に閲覧やコピーをすることができます。教員採用試験関係では、各都道府県の試験問題集や募集要項をまとめた冊子などが好評です。キャリアアドバイザーによる就職相談もキャリアサロンで行っています。



## Voice



教育学部  
学校教育教員養成課程  
教育・発達基礎コース 4回生  
くぼ さえこ  
**久保 瑛江子**さん  
私立帝塚山高等学校出身

**キ**ャリアサロンは、週に2回以上、多いときは毎日のように利用しています。キャリアアドバイザーの先生への相談がメインですが、各都道府県の要項がまとめられた冊子などさまざまな資料が用意されており、情報収集等にも活用しています。キャリアサロンで他の人ががんばっている様子を見ることが刺激を受けることができますし、何より私にとって安心できる居心地が良い場所です。

## リニューアル工事中!

現在キャリアサロンは、学生の皆さんにとってより使いやすい施設にするべく、リニューアル工事中です。

ここが新しくなります。

- ガラス張りにして、誰でも気軽に入りやすい雰囲気
- 気軽に文献や資料を閲覧できるようハイカウンターやハイチェアを設置
- プライバシーに配慮した個別相談ブースを設置 など



# キャリアアドバイザー

キャリアサロンには、教員就職を目指す学生に対してエントリーシートや小論文の書き方、筆記試験に向けての勉強方法、面接や集団討論の指導等を行うキャリアアドバイザーが常駐しています。本年4月から新たに二人のキャリアアドバイザーが着任しました。豊かな経験と知識に基づいたアドバイスは相談に訪れた学生からも大変好評です。

## 教員採用試験 全員合格を願って！

静かでのどかな奈良教育大学ですが、キャリアサロンは今熱く燃えています。4月中旬から予約者や飛び込み学生がどんどん増え、5月はのべ390人でした。今年受験する人たちがほとんどですが、中には3回生もいます。エントリーシートや小論文の添削、願書の書き方、集団討論・面接の練習等、全国さまざまな地域の教員採用試験対策をしています。小論文や面接では“自分が教員になったとき、どのように取り組むか”という具体策が求められます。その自分なりの具体策を導くために、私はみなさんの長所や経験を聞き、課題ごとに現場での状況を話しながらか一緒に考えています。その中で自己PRを確立し、新しい知識をまるでスポンジが水を吸い込むように吸収し、徐々に元気になっていく皆さんの姿を見るのが、今一番楽しみです。自信をもって元気よく、教員採用試験に立ち向かってください。全員合格を期待して、学生の皆さんを全力で支援し応援していきます。

## 気軽に相談してください！

今年の4月から、キャリアアドバイザーとして奈良教育大学の皆さんの教職に関する進路・就職や教員採用試験に関する相談などをさせていただいています。小・中学校や教育委員会で勤務した経験を生かして、学生の皆さんの役に立てればと思っています。

今のところ4回生の皆さんが多く、面接や論作文、教職教養や一般教養など幅広い課題が課される教員採用試験に向けての対策を行っています。みんな自分のよいところを伸ばし、少し苦手な部分を克服しようと一生懸命です。私たちがその手伝いをしています。相談に来た学生さんが、来たときよりも明るく元気な顔になるのを見るとホッとします。

また、3回生以下の学生さんも教員採用試験の情報などを得るために、キャリアサロンを訪れています。早いうちから情報を得て計画を立てておくのは、とてもよいことだと思います。小さなことでも結構ですので、気軽にキャリアサロンに来てください。

アドバイザー  
かきもと あつこ  
**柿本 篤子**

奈良県内の公立小学校、中学校、奈良県教育委員会事務局で勤務。平成26年3月、河合町立河合第二中学校校長を最後に定年退職。



アドバイザー  
ばんどう としゆき  
**阪東 俊行**

奈良県内の公立小学校、中学校、奈良市及び奈良県教育委員会事務局で勤務。平成26年3月、奈良市立椿井小学校校長を最後に定年退職。

## Voice



教育学部  
学校教育教員養成課程  
言語・社会コース 4回生

**私**は、今年の5月中頃から、週3回程度相談に訪れています。今は、主に面接について相談しています。キャリアアドバイザーは、実際に教員として活躍されていた先生ですので、教員の経験に基づいたアドバイスや話をいただけます。その話の中から、こんな考え方があるのかと気づかされることもよくあります。また、専門が異なる2人の先生がおられますので、それぞれの専門にあわせた相談ができます。

おざき えみ  
**尾崎 瑛美さん**  
京都市立紫野高等学校出身





## その他プログラム

### 01 導入ガイダンス

次年度に教員採用試験の受験を予定している学生を対象に、教員採用試験の内容や今後の勉強の進め方についてアドバイスします。また、教員採用試験に合格した在学生在が体験談を披露します。



### 05 実技指導

音楽や体育、図画工作などの実技試験について指導を受けることができます。また、試験前には音楽練習室やプール、体育館などが練習場所として開放され、練習に活用できます。



### 02 メールマガジン

ほぼ毎週メールマガジンを発行し、各種支援プログラムや講座の案内、受験上の注意事項など、教員採用試験受験にあたって役立つ情報を提供しています。

### 06 自習グループ支援

共に学び合うためのグループ作りをサポートし、模擬授業や模擬面接などを行う学生に対して、ビデオカメラの貸し出しや練習スペース確保の支援などを行っています。

### 03 特別プログラム

勉強の仕方やエントリーシートの書き方、身だしなみに関する指導、集団面接や集団討論、模擬授業のデモンストレーション、教員採用試験を受験するにあたって必要となる事項を、外部講師や本学教員が幅広く指導します。



### 07 ケースメソッド

実際に学校現場で起こったケースを用いて、どのように対応すればよいのか学生が考え、議論します。面接対策になると同時に、現場に出て経験したことがない事態が発生したときに、適切に判断するための訓練になります。  
(詳細は、P.16「奈教のひみつ」で紹介しています)



### 04 模擬授業、 模擬面接、 模擬集団討論

校長等を務められた方に面接官としてお越しいただき、本番さながらの雰囲気の中で練習し、アドバイスを受けることができます。



### 08 出陣式

教員採用試験を直前に控えた学生を激励し、受験上の注意事項を確認するために実施します。学長による激励や前年度試験合格者からのビデオレター、スポーツ選手のメンタルトレーニングに関わってきた本学教員による、試験場での緊張をほぐす方法のレクチャーなどが行われます。



#### Voice



大学院 修士課程  
教科教育専攻 1回生  
(平成 26 年度  
奈良県教員採用試験  
(小学校) 合格)  
かす が ひかる  
春日 光さん

**私**は、昨年度、奈良県の小学校の教員採用試験を受けました。最初は何から始めたらいいかわからず、キャリアアドバイザーの先生に相談に行くと、筆記対策の仕方、小論文、模擬授業まで本当に丁寧に教えていただきました。また、特別プログラムでは、全体での面接練習や模擬授業はもちろん、グループでも何度も練習をしました。アドバイスは本当に貴重で、少しでも良くなるように毎日必死に練習しました。さらに、体育や音楽の実技対策も用意されており、

自信をもって試験に臨むことができました。奈教の教採対策プログラムは充実しているので、一生懸命取り組みれば力がつき、必ず結果もついてくると思います。試験直前は不安な気持ちでいっぱいでしたが、出陣式に参加して改めて周りに心強い仲間がいることを実感し、当日は落ち着いて自分の力を出し切ることができました。教えていただいた先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。つらいこともたくさんあるかもしれませんが、教師になろうと思った初心を忘れずに頑張ってください。



# クローズアップ

本学教員の研究を  
詳しく紹介

## 子どもの身近な地域と

まず、最近の私の授業光景(写真1、2)を見ていただきましょう。写真1は、「初等教科教育法(社会)」という授業で、東大寺南大門(国宝)の歴史的背景等に関する説明をしている光景です。写真2は、「地域文化論」という授業で、本学の実習園(農場)の一隅に立ち、ヒガンバナの球根を学生諸君に見せながら、かつて飢饉のときには根に含まれるデンプンを水さらしたうえで食用にしたという説明をしている光景です。実習園は、大学から南に徒歩10分ほどのところにあり、秋にはヒガンバナの花と稲穂が美しい景色を演出してくれます(写真3)。

写真1・2ともに、私の研究の延長線上にあるものですが、以下では、

私がこれまでどのようなことに関心を持ち、研究を進めてきたのかを具体的に述べていきます。

### 子どもは身近な地域を どう把握しているか

私は、学部と大学院修士課程で地理学という分野を専攻しました。大学院生のときに、地理学研究の延長上の課題として、私は、子どもが自分の身の回りの地域をどのように把握しているのだろうか、という問題に関心を持つようになりました。当面の研究材料は、子どもの手描き地図です。写真4は、私の初期の研究で

入手した手描き地図のひとつで、東京都内の小学校1年生(男児)が自宅から学校までの通学路の様子を描いたものです。6才頃の子どものは、自己中心的に身の回りの様子を見ますが、写真4の左下あたり、横断歩道の描き方に、そのことが端的に表れています。

私は、修士課程修了後、1979年4月に東京都内で小学校教員になりました



(写真4) 子どもの手描き地図の一例(岩本1989より)



(写真1) 東大寺南大門付近での授業のひとつ



(写真2) 実習園でヒガンバナの球根を見せる筆者(中央)



(写真3) 秋の実習園の様子





# 植物に着目する



(写真6) マテバシイの実



(写真5) 1947年発行『社会への旅』全3冊の表紙



(写真7) 干し柿作り

した。以降、1980年代から90年代にかけては、学級担任の仕事をしてながら、手描き地図のほかに、フィールドワークを通して、子どもの身近な地域での遊び・生活行動などの研究に取り組みました。これらの問題には、2000年以降も関心を持ち続けていて、子どもの川遊びの研究(2002年)や駄菓子屋に来店する子どもの研究(2005年)などをまとめました。国際比較の試み(2006年、2014年)もあります。また、子どもの手描き地図等の研究から発展させた研究として、地図学習論やカリキュラム論等の地理教育の研究も手がけてきました。地理教育に関する研究は現在も継続しており、ごく最近も、1947

年発行の『社会への旅』という「社会科読本」(写真5)の研究について学会で報告しています(2014年)。この研究のキーワードは「郷土」であり、「身近な地域」と似た概念です。ちなみに、東大寺方面は、本学の学生にとって「身近な地域」という位置付けになります。

## 身近な植物の利用

私は、学生のときから、農山村のフィールドワークにしばしば取り組み、身近な植物(および作物)の利用のあり方にも関心を払ってきまし

た。1991年10月、本学に着任後は、さまざまな植物や作物を、講義の材料にするだけでなく、多様な活動を学生に体験させてきました。これまでに授業で取り上げてきた素材は、イネ、コムギ、チャ、ダイズ、サツマイモ、ナタネ、カキ、ドングリ(ブナ科の木の実の総称)、ウメなどさまざまです。先に挙げたヒガンバナ(写真2、3)もその一環です。「環境教育」の授業では、ドングリのひとつであるマテバシイの実(写真6)を加工してクッキーを作りました。「地域文化論」の授業では、渋ガキを用いて干し柿(写真7)を作りました。「幼児と



### プロフィール

社会科教育講座

教授 **岩本 廣美**

専門は、地理学、地理教育、環境教育

東京学芸大学大学院修士課程教育学研究科修了

教育学修士

小学校教諭を経て、1991年本学助教授、2007年より現職

奈良県河川整備委員会委員など

最近、奈良県師範学校郷土資料室が収集した諸資料の研究を始めました。





環境Ⅱの授業では、サツマイモが附属幼稚園での焼き芋大会(写真8)のいわばヒーローです。サクラの落ち葉で焼いたサツマイモの味は、格別です。

これらの素材のうち、文献研究の成果や他の材料を加えて教育への活用方法等を考察し、学会で報告するとともに、論文にまとめたものがあります。総論(2001年)を皮切りに、生活科等でのドングリとカキの利用(2004年)、保育等でのサツマイモの利用(2005年)、社会科等でのイネの利用(2014年)のほか、コムギ、チャ、ナタネについても、雑誌等で教育への活用について見解をまとめています。このように見ると、私の場合、授業での諸活動と研究とは、あたかも車の両輪のような関係にある、といえそうです。

ウメは、これから研究を深めたい素材のひとつです。ここ数年、ゼミ

生に限定ですが、ウメの実を利用して梅干し作りの活動をしています。6月に実習園のウメの実を採取後、塩漬けし、7月に天日干しする、という活動です(写真9、10、11)。天日干し後は、1年間以上寝かせ、食べるのは翌年の10月以降です。この梅干し作りの活動を通して学生に話をしていることは、本来の梅干し作りは、天然材料(塩およびオプションとしてのシソの葉)と自然の力(日光)だけを利用し、長期間かけて行うものであり、できあがった後も冷蔵庫に入れる必要のない保存食であるということです。

### 自然と人間の関係を考える

最近の私は、自然と人間の関係に

ついて考えるようになってきています。ここで大切なことは、我々の身の回りで、ひとりひとりが、自然に関わって、できることから取り組んでいくことであると考えています。梅干し作りは、まことにささやかな取り組みですが、その一例になるであろうと想定しています。また、先に挙げた素材や活動の中では、干し柿作りも、必要なものは晩秋～初冬の冷たく乾いた風だけであり、こうした考えを深める手がかりになっています。「焼き芋大会」についても、使う燃料は主として学内で集めた落ち葉であり、化石エネルギーに依存していない、という点で同様です。

我々の身の回りには、自然と人間の関係を考えるための研究材料があふれています。私は、今後もこれを通して、教育論をいっそう深めて行きたいと思っています。



(写真8) 附属幼稚園での「焼き芋大会」の様子



(写真9) ウメの実の採取



(写真10) 採取したウメの実



(写真11) 梅干し作り(天日干し)







# ラボ・レター

— 学生による研究室紹介 —

学校教育教員養成課程  
教科教育専攻 家庭科教育専修  
(改組前: 学校教育教員養成課程  
理数・生活科学コース 家庭科教育専修)

家庭科教育

鈴木洋子研究室



教育学部 学校教育教員養成課程  
理数・生活科学コース 4回生

春尾 咲紀さん

奈良県立郡山高等学校出身

From

## 鈴木研究室紹介

家庭科教育専修の学生は、3回生の後期に所属する研究室が決まります。家庭科の学習は、保育、食物、被服、家族、家庭経営、住居など非常に幅広い分野に及んでいますが、そのような家庭科を教科として研究できるのが鈴木研究室の魅力です。現在、学部生2人、院生2人の計4人が所属しています。研究室のゼミでは、研究の進行状況を報告し合い、今後の研究の進め方について話し合います。院生の方との合同のゼミでは、全員の研究テーマに食育が共通しているので、学校給食に関する本を取り上げて講読し、お互いの知識を高めています。鈴木先生は豊富な知識や経験を生かし、適切なアドバイスをしてくださるので、自分の中になかった考えに気づくことができ、また、他の学生や院生の方からも意見を聞くことができるのでとても勉強になります。

## 今後の家庭科教育につなげる

これまでの鈴木研究室の卒業論文は、「リクルートスーツの購入と着用について」、「生活実践につながる家庭科教育」、「教員を目指す大学生の給食指導に関する意識と課題」、「小学校における給食指導への提案」など非常に多岐に及んでいます。しかし、これらに共通して言えることは、今後の家庭科教育や食育に貢献できる内容であることです。私たちもこれからより一層研究を深め、少しでも子どもたちの学びと成長に貢献できるよう努力していきます。

## 卒業論文・修士論文のテーマ

### 米飯給食に関する研究 —家庭用炊飯器による 米飯提供の事例研究—

教育学部 学校教育教員養成課程  
理数・生活科学コース 4回生

春尾 咲紀さん(奈良県立郡山高等学校出身)

学校給食に家庭用炊飯器を導入した取り組みが各地で行われています。その一例の高知県南国市では、残食が減り、子どもの米に対する興味・関心が増えたという効果が報告されています。そこで、より多くの子どもたちに温かくておいしいごはんを提供することを願い、各地の事例を収集、分析し、効果や課題の表出に取り組んでいます。



### 教員を志望する学生の 食事マナーに対する意識

教育学部 学校教育教員養成課程  
理数・生活科学コース 4回生

中島 明日香さん(兵庫県立神戸高等学校出身)

私は、日本の食事マナーについて関心があります。マナーに対する意識は、指導を受けた子と受けていない子で違いがあることがわかっています。給食指導において、食事のマナーを教えることも教師の役割です。そこで教師を志望する学生自身の食事マナーに対する意識調査を行い、そこから見たことをもとに学生の食事マナーの意識向上の啓発を考えています。



### 中学校における食育の実態と課題

大学院 修士課程 教科教育専攻 1回生  
河盛 真世さん

平成17年に食育基本法が施行されたのをきっかけに、学校での食育が重視されるようになりました。中学校については教科中心の授業展開のために、食育の時間がどの程度確保されているのか、小学校ほどに実態が十分に把握されていません。そこで中学校の食育の現状を把握し、課題を究明していきたいと考えています。



### 中国における食に関する指導の実態と食育推進のための課題

大学院 修士課程 教科教育専攻 1回生  
高揚 さん

現在、中国では日本の家庭科に相当する教科はありません。そのため、生活についての学習はほとんど学校で行われていません。食べることは、生活に関する学習のなかでも命に直結することなので非常に大事であり、全ての小学校で行うべきだと考えています。そこで、中国で食育を行った場合の課題を明らかにしたいと思います。



本学の大学院教育学研究科には、専門職学位課程、いわゆる「教職大学院」が設置されています。「教職大学院」は、山積する教育問題への喫緊の対応が求められる近年において、専門性と実践力に裏打ちされた高度専門職業人としての教員の資質能力を高めるべく、平成20年4月に開設され、県から派遣された教職経験豊富な現職教員や学部卒業後すぐに進学したストレートマスターなど、さまざまな立場の学生が学んでいます。

今回は、教職大学院を修了し、教育現場で活躍している3名の現職の先生方を紹介します。

## 教職大学院 院長 いけしま とくひろ 池島 徳大

本学教職大学院は、高度な専門的知見と実践力を有するプロ教員を育成するため、文科省より設置認可を受け、平成20年4月に開設いたしました。平成26年3月末までに、76名の修了生を輩出し、管理職をはじめ指導行政職、あるいは学級担任等として、さまざまなところで活躍しておられ、大変うれしく思っております。

実践は、指導・援助という明確な目的をもつ活動ですが、今日、応用問題となって対応に悩まされている状況にあるといえます。このような時にこそ、大学院で学んだ専門的知見をもとに、自らの実践を振り返りながらよりよい実践を構想するなど、学び続けるプロ教員であって欲しいと期待しております。後輩の育成のためにも、より一層、修了生の皆さんのお力添えをいただけますよう、お願いいたします。



# 教職大学院

## 学び続ける教員に

私は、平成21年度から2年間、現職院生として奈良教育大学教職大学院で研修する機会をいただきました。より高い専門性と実践力を身につけたいという思いが修学の動機でした。

大学院では、「理論と実践の往還」に示されるとおり、長年積み重ねてきた自分の実践を振り返って理論付け、さらに理論を基に課題解決や指導の改善に向けた実践を研究、検証していきました。「国語科の表現指導」を主題に、松川利広先生に継続して授業を見ていただきご指導を仰いだ課題研究は、これまでの授業実践の集大成となりました。

こうして講義や演習、研究に取り組む中で、新しい知見を得ることの喜び、学ぶことの楽しさ、大切さを改めて実感しました。この2年間の貴重な学びは、現在携わっている教育行政の仕事にもつながり、私の財産となっています。

今、教育的課題の一つに子どもたちの学習意欲が低下していることが挙げられます。子どもたちに分かる喜びや学ぶ楽しさを伝え、「もっと知りたい、学びたい!」と学習意欲を高める指導ができるように、私自身、これからも学び続ける教員でありたいと思っています。

1. 奈良県教育委員会 事務局  
教職員課人事企画係 管理主事  
原井 葉子さん  
(大学院 専門職学位課程(教職大学院)  
平成23年3月修了)



松川利広先生の研究室で(大学院在籍時。筆者は後列左端)





## 教職大学院での学びを契機にさらに前進

平成20年、新しく創設された教職大学院1期生として、期待に胸をふくらませ入学しました。熱意あふれる指導教員のもと、奈良県派遣教諭5名を含め現職教員とストレートマスター総勢29名は、みな、フロンティア精神を抱いていました。

教職大学院は、目指す教師像を決め、指導教員と相談して履修科目を決定します。私は、「スクールリーダー」を視野に入れた「授業者・教科指導の専門家」としての教師を目指しました。特色あるカリキュラム開発・学校評価と校内研修・学校経営実践論などを履修し、すべての指導教員から丁寧な指導を受け、汎用性のある学びを得ることができました。また、2年目は勤務校に戻り、児童一人一人の成長を継続して捉え、言語力育成のため研究を進めました。

卒業の次年度には、計画的に校内研修の推進に取り組み、教職大学院で研究した「要約に関する言語能力表」（文章を要約するのに必要とされる能力を計画的にまとめたもの）を学校全体で活用することにし、その成果を県へき地教育研究大会の会場校である自校で発表しました。国語科指導の一方法が分かると好評でした。

以前は、経験則で研究を進めていた観がありましたが、今日的な知識・方法論を学び、実践と理論を往還しながら学校の研究を組織的に進められるようになり、研究主任としての成長を自覚できました。

今は、教頭職の立場で、カリキュラム開発、アカウンタビリティや学校評価等について学んだことを学校運営に生かしています。

2.

山添村立やまぞえ小学校 教頭

まつもと さとし  
松本 哲さん

(大学院 専門職学位課程(教職大学院)  
平成22年3月修了)

研究推進に関わっては、研究主任を中心に全職員が共通理解して研究に取り組めることを目指し、丁寧な指導を心掛けています。

2年間の教職大学院での学びを契機として、さらに職員と研修を推進していきたいと思います。



グループで演習(大学院在籍時)

After  
graduation



勤務校での研究発表会の様子

3.

天理市立西中学校 教諭

つくも しんご  
九十九 慎悟さん

(大学院 専門職学位課程(教職大学院)  
平成23年3月修了)



学校の野外活動に参加しました



課外授業で南極の氷について説明

## 「わかる」授業をするために

現在、私は天理市立西中学校に勤務しています。特別支援学級の担任を務めており、生徒たちと一緒に忙しいながらも、楽しく過ごしています。生徒との距離がとても近いので、生徒の成長や授業での驚きなどをとても強く感じることができ、やりがいになっています。

教職大学院在学中には、学習内容を視覚化すること、その際に生徒の生活経験を踏まえた教材開発を行うことをテーマに研究や実践を行っていました。この経験は現在でも、私が授業をする上での基本的な考えになっています。中学校では目に見えないことや抽象的なことを学ぶことが増え、そこでつまずく生徒が多くいます。例えば、原子や分子、イオンという「目に見えないもの」について学習する。これらは「目に見えない」ため、自分の中にイメージを定着させにくく、学習を嫌う生徒が少なからずいます。そんな生徒のために「わかる授業」をしようと授業展開をパワーポイントや動画を用いて、行うようにしています。準備や展開のやり方を試行錯誤しながらですが、「面白い」や「わかりやすい」という生徒の言葉を励みに日々の仕事に励んでいます。



# 奈教のひみつ

学生広報スタッフ  
“なつきょん”s CLUB  
企画



## 取組紹介 ～教師力サポートオフィス～

次世代教員養成センター 2号館内に「教師力サポートオフィス」を設置し、教師になるために必要な能力や学ばべき知識を身につけるためのさまざまなサポートを行っています。

今回は、その一部を紹介します。

[http://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/netcommons/htdocs/?page\\_id=178](http://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/netcommons/htdocs/?page_id=178)



次世代教員養成センター2号館には、小学校や中学校の学級教室を再現した「モデル教室」があります。実際の教室の三分の二程度の大きさですが、壁や床、黒板、ロッカー、机やイス、教卓、教壇など、一般的な教室にあるものはたいい揃っています。

モデル教室では、授業等の機会を用いて、学生のみなさんが座席の配置を考えたり、掲示物を作ったりしています。平成26年度は、小学校2年生の教室を再現しています。こうした取り組みを通して、学生のみなさんには、教室内の物の配置や掲示物などの教室環境に込められた教育的な意図について、実践的に学んでもらっています。

同時に「モデル教室」は、教育方法や教科教育法などの授業で行う模擬授業や、教育実習事前・事後指導などでの教材づくり、あるいは教員採用試験対策としての面接・討論練習の場としても利用してもらっています。

学校の先生が受け持ちの教室を整備することは、たんなる「作業」ではなく、その先生の教育観を体現する「実践」と言えます。とりわけ教室環境づくりに参画した学生のみなさんには、教室環境という側面から、学校現場に出た時にすぐに通用する実践的指導力を磨いていってほしいと願っています。

また、模擬授業等の機会にモデル教室を利用する学生のみなさんにも、整備された教室環境をよく観察し、そこに込められた意図について、考察を深めてほしいと思います。

次世代教員養成センター  
准教授 あかさわ はやと 赤沢 早人



| そうじ当番表 |     |
|--------|-----|
| 教室(ほ)  | 4 班 |
| 教室(そ)  | 1 班 |
| 教室(て)  | 2 班 |
| 音楽室    | 5 班 |
| 3Fトイレ  | 6 班 |
| 3F下    | 3 班 |

そうじ  
当番表



かかり  
列車

短焦点型  
プロジェクタ



白い壁は  
全面ホワイト  
ボード

先生から見た風景



クラスメイト  
の手作り  
データ







ケースメソッドとは、実際に起こったケースを用いて、受講者に実務能力を育成する教育方法です。ケースメソッドの一例をあげます。

### 例

あなたは、小学校6年生を担当しています。あなたの学級に衝動的に暴力をふるう男子児童があり、在校中、放課後を問わず近くにいる児童が被害に遭います。ある日、母親から、「6年生になってから毎日のように、うちの子に殴られた、と苦情がきます。去年はこのようなことはありませんでした。先生の対応が悪いのではないですか。」と電話がありました。あなたは、このような状況でどのように対応しますか。

大学の授業や研修、書籍からは、教育についてのさまざまな知識を得ることができます。しかし、知識があれば実務に有能かといえば、そうではありません。知識があるということと、実務に有能であるということの間には、かなりの隔たりがあります。

学校では、日々さまざまな課題が発生します。優れた教員は、今までに経験したことのない課題、前例のない課題に対しても、その場の状況を踏まえた最適な判断を行います。この積み重ねが課題解決への道となるのですが、ケースメソッドはこの判断の訓練の場ということができます。最近の教員採用試験では、場面指導という名称で、学校で生じる課題への対応を問われることが多くなっています。

今年、4月から5月にかけて、教員採用試験受験前の4回生のみなさんを対象にケースメソッド授業（4日間に、教員の服務義務、懲戒と体罰、道徳教育、保護者との関係をテーマとする8つのケースを扱いました）を行いました。受

講者からは、「自分とはまったく違った視点の方の意見がたいへん参考になった。」「保護者を見る視点が変わりました。」「教師は、良い授業ができるというだけでは足りない。」「正確に事例を捉えているか！どれだけ真正面から向き合っているか！（が大切だと思った）」など、たくさんの感想がありました。

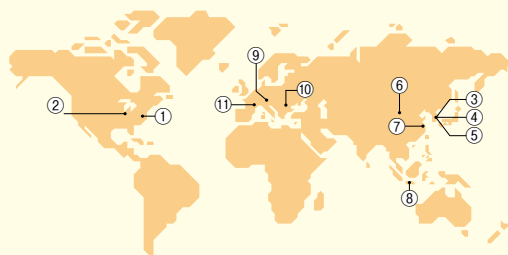
次世代教員養成センター教師力サポートオフィスでは、このようなケースメソッドを100以上開発しています。また、この4月には、「教師力を鍛えるケースメソッド123～学校現場で生じる事例とその対応～」という書籍をミネルヴァ書房から発刊いたしました。本学図書館でも借りられます。興味ある方は、ぜひ手に取ってみてください。



次世代教員養成センター 特任講師 <sup>あかい さとる</sup> 赤井 悟



# 留学生 レポート



- ①ロックヘイブン大学
- ②セントラルミシガン大学
- ③嶺南大学校
- ④公州大学校
- ⑤光州教育大学校
- ⑥西安外国語大学
- ⑦華東師範大学
- ⑧インドネシア教育大学
- ⑨ハイデルベルク大学
- ⑩ブカレスト大学
- ⑪リヨン第三大学

## Interviewee



教育学部 学校教育教員養成課程  
身体・表現コース 4回生  
福井県立大野高等学校出身

みやま なつみ  
**宮山 夏光さん**  
ロックヘイブン大学 (アメリカ)  
(留学期間 2013.8 ~ 2014.5)



最初のオリエンテーション。アメリカに着いて数日目の写真。  
このころはまだ緊張していました。



サンフランシスコ。thanksgivingでサンフランシスコに行った時の写真。初めての長期旅行。友達との仲が深まった旅行です。

### ✚ 留学をしようと思ったきっかけは。

教師になる上で、留学経験は自分の糧になると思ったためです。また、大学に入学する前から留学に興味があったこと、そして家族の後押しが留学の決心につながったと思います。

### ✚ 留学する前にどのように語学の勉強をしていましたか。

物置きに眠っていた高校の単語帳や問題集などを使って勉強しました。新しいことをやるというよりは、忘れてしまったことを思い出すことを中心に勉強しました。

### ✚ 留学先ではどのような1日を過ごしていましたか。

9時頃に授業が始まり、すべての授業が終わるのは3~4時頃でした。放課後は課題をしたり、友達とジムに行き運動したりしていました。また、私はピアノと声楽のレッスンもとっていたので、授業の合間に練習していました。

### ✚ 留学生活で一番驚いたことは何ですか。

留学生活は驚きの連続です。そのなかでも素敵だと思ったのは、ルームメイトの家族のことです。誕生日やクリスマスには、家族や親せきみんなが集まってお祝いします。また、普段の生活でも家族が帰ってきたらおかえりのハグをし、「I love you」という言葉が毎日飛び交っていました。家族への愛を目に見える形で表現している、そんな素敵な家族に出会いました。



最後の日。ロックヘイブンでの最後の日に、大好きなルームメイトと撮った一枚。また会いたいです。

### ✚ 留学中一番うれしかったこと、逆に大変だったことは何ですか。

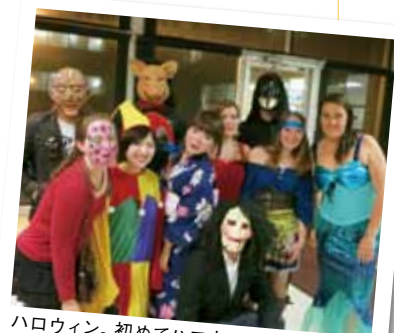
うれしかったことは、自分のフィールドである音楽で人から認めてもらえたこと、そして音楽を通してたくさんの素敵な出会いや経験に恵まれたことです。大変だったことはコミュニケーションです。最初は聞き取れないことや、私の発音が通じないことがよくありました。また授業内容が難しく、私の語彙力ではついていけないことも多々ありました。

### ✚ 留学体験をどのように生かしていきたいと思いますか。

英語の勉強は続けていきたいです。そして何より英語でコミュニケーションができる機会にはどんどん飛び込んでいきたいです。また、教師になったら、自分の英語力を生かすだけでなく、留学を通して学んだことを子供たちに伝えることで、子供たちの国際観を育てていけたらうれしいです。

### ✚ 在学生、高校生の皆さんに一言。

もし少しでも留学に興味があるなら、ぜひ挑戦してください。自分が思っている以上の学びや喜びがあると思います。



ハロウィン。初めてハロウィンに衣装しました。楽しかった！







ロックハイブン大学 (アメリカ)

1986年7月交流協定締結  
ペンシルベニア州にある小規模公立大学です。教育者育成に関して有名で、少人数制で教職員と学生との距離が近く、質の高い教育が提供されています。また、世界各国からの留学生が多く学んでいます。



インドネシア教育大学 (インドネシア)

2005年12月交流協定締結  
バンドンにあるインドネシアの代表的な国立大学で、質の高い教育が提供されています。日本語教育に関する学科が設置されており、インドネシアにおける日本語教育の中心的・指導的存在です。



山焼き

答志島学習旅行で作った  
シェルキャンドル



## Interviewee



インドネシア教育大学  
(インドネシア)  
クスマワティ  
**KUSUMAWATI**  
ムティア  
**MUTIA** さん

日本／奈良教育大学 (留学期間 2013.10 ～ 2014.8)



北海道の雪

### ✚ 留学をしようと思ったきっかけは。

私は小さい頃にアニメや漫画から日本の文化を知って、興味を持っています。なので、いつか日本に留学することは昔からの夢でした。

### ✚ 留学する前にどのぐらい日本語を勉強していましたか。

高校3年生から学校で第2外国語として日本語を勉強していました。日本語はすごく面白いので、学校の日本語クラブにも参加していました。学校外の日本語塾にも3ヶ月ぐらい通っていました。高校を卒業した後、インドネシア教育大学で日本語教育を4年間ぐらい勉強していました。

### ✚ 奈良教育大学の学生としてどのような一日を過ごしていますか。

主には授業に行ったり、友達と一緒に食堂で食べたり、話したりします。ときどき、いろいろな国の料理会もします。そして、茶道部に入ったので、お茶のお稽古を一週間に一回やっています。また、見学や旅行などもします。それから、機会があれば大学生や国際ボランティア協会の人などと国際交流をします。

### ✚ 留学生活で一番驚いたことは何ですか。

奈教の附属中学校に行ったとき、学校内や学校の近くに食堂や店などがなくて、生徒が皆お弁当を持ってきたことにびっくりしました。お弁当はとてもかわいくて、お母さんが丁寧に作っていることがわかりました。インドネシアだったら、中学校には必ず食堂があります。食堂がないとしても、学校の近くに店や屋台があります。お弁当を持っていく習慣はあまりありません。

### ✚ 留学中一番うれしかったことは何ですか。

私は熱帯気候のインドネシアから来たので、日本に来て生まれて初めて雪を実際に見ました。すごくうれしかったです。見た瞬間涙が出そうなほどうれしかったです。寒さが苦手なのですが、綺麗な雪を見たら心があたたかくなりました。雪だるまを作ったり、雪合戦をしてすごく楽しかったです。

### ✚ 留学体験をどのように生かしていきたいと思いますか。

日本で学んだことをまだ日本について知らないインドネシア人に教えたいです。また、日本で体験したことが日本に留学したいインドネシア人の役に立てばうれしいです。私はインドネシアと日本や世界のいろいろな国の架け橋になりたいです。

### ✚ 日本の大学生、高校生の皆さんに一言。

留学することで、いろいろな国について知るようになったし、自分の国についてももっと深く知るようになりました。他の国について聞くと、相手にも自分の国について聞かれました。今まで考えたことのない自分の国のことを気づけるようになります。最初はちょっと不安でしたが、違うことばかりではなくて同じ点もたくさんありますので、ぜんぜん大丈夫です。皆さんも留学するチャンスがあれば、ぜひ行ってください。いい経験になると思います。



茶道のお稽古



キャンパスで輝く学生を紹介

# キラリ 奈教生



お気に入りのバルテ(講堂)前で



たくさんの人が弁論大会の応援に来てくれました

## 日本での経験を生かしてさらに研究を深めたい

平成26年5月24日、松江市で「第55回 外国人による日本語弁論大会」が開催されました。この弁論大会は、外国人を対象とする日本語弁論大会としては最も歴史のある大会で、スピーチ原稿や録画映像による予選審査を勝ち抜いた者だけが本選に参加できます。今回は、予選審査を見事通過し、本選に出場したルーマニアからの留学生スタンク・アンドレア・ミハエラさんに話を聞きました。

### 口に出さない言葉の力

弁論大会でのアンドレアさんの演題は「口に出さない言葉の力」。これは、日本での実体験に基づくものです。アンドレアさんは、本学で学びはじめてしばらくしてから、弓道部に入部しました。ルーマニアでは、弓道はほとんど行われておらず、日本に來ないとできないことをやりたいという思いから弓道を選んだそうです。そんな弓道部では、初めてのことや慣れないことの連続で失敗ばかりしてしまい、いつも暗い顔をしていました。そんな中、失敗したことへのお詫の気持ちを示そうと、師範にバレンタインのチョコレートを用意したアンドレアさん。師範に渡したところ、師範はまじめな顔で「これは本命チョコだね」と言い、義理チョコだと伝えと残念そうな様子で「本命チョコじゃなくて残念だよ」と言ったそうです。その様子を見ていた他の部員は大笑いし、アンドレアさんも楽しい気分になり、元気が出ました。いつも厳しくまじめな師範が、どうしてこのような冗談を言ったのか疑問に感じたアンドレアさんは、その意味を考えた結果、一つの答えにたどり着きました。それが「口に出さない言葉の力」です。師範の行動の背後には別の意味が隠されており、失敗して落ち込んでいるアンドレアさんを、間接的な方法で応援しようとしていたのです。直接「頑張れ」と言われていれば、さらに落ち込んでいたかもしれません。直接口に出さずに間接的に伝えることで、直接伝えるよりも効果的な場合もあるのです。「口に出さない言葉の力」を実感した出来事でした。

### 練習を重ねて本番に臨む

弁論大会では、単に日本語を話せば良いという訳ではありません。6分間という決められた時間の中で、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えなければなりません。そのためアンドレア

さんは、先生や他の留学生を相手に、数え切れないくらい練習をし、本番でも練習と同じように落ち着いて話せるように準備をしたそうです。当日は、あいにく体調がすぐれない状態での発表となりましたが、遠くまで応援に来てくれている先生や友人、そして発表を聞いてくれている人々をがっかりさせてはいけないという思いから、舞台上がって話し始めると緊張や体調不良はなくなり、無事練習通りに発表することができました。

### 日本での経験を基にさらに研究を深める

ルーマニアでは日本語と日本文学を専門に学んでいたアンドレアさん。来日前に日本人の本音と建前に関する文献を読み、日本人がどんなときに本音を使い、どんなときに建前を使うのかが理解できず、日本に來るのが怖かったそうです。しかし、弓道部の活動などで実際に日本人と接するうちに、イメージは変わっていきました。そのことが印象的だったアンドレアさんは、帰国前に提出する最終レポートにおいて、本音と建前に関する事項を取り上げています。帰国後は、日本で学んだり実際に感じたりしたことなどをきちんと整理し、それらを生かして引き続き日本語と日本文学に関する研究を続けるそうです。

### 読者へのメッセージ

最後に、読者へのメッセージをいただきました。

「留学は怖いことだと思うかもしれませんが、自分の力を試しそして成長させることができる良い方法です。自分が目指していることの実現への手助けとなり、自分が学んでいることを深める機会となります。また、世界中から來ている留学生と仲良くなることで、世界中に友達ができます。ぜひ留学してみてください。」





**ブカツ魂!**

奈良教育大学には、文化会所属10団体、体育会所属26団体のクラブがあり、多くの学生が仲間とともに活動しています。ここでは、そんな課外活動を紹介します。

今回は、ギターマンドリンクラブです。

文化会

- ギターマンドリンクラブ
- 書芸部
- ウインドアンサンブル
- 地歌箏曲部
- 軽音楽部
- 現代視聴覚文化研究会
- 茶道部
- 合唱団コールグレイス
- 劇団キラキラ座
- (障がい者問題研究会)
- すずのて

体育会

- 合気道部
- 弓道部
- 剣道部
- 男子硬式テニス部
- 女子硬式テニス部
- 硬式野球部
- 男子サッカー部
- 女子サッカー部
- 準硬式野球部
- 少林寺拳法部
- 水泳部
- 創作ダンス部
- 男女ソフトテニス部
- 男子ソフトボール部
- 卓球部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- バドミントン部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- 男子ハンドボール部
- 女子ハンドボール部
- ラグビー部
- ワンダーフォーゲル部
- 陸上競技部
- 柔道部

[学生団体・クラブ紹介] [http://www.nara-edu.ac.jp/campus\\_life/extracurricular/extracurricular\\_education/](http://www.nara-edu.ac.jp/campus_life/extracurricular/extracurricular_education/)

**pick up**

ギターマンドリンクラブ 部員数25名(男性7名、女性18名)

ギターマンドリンクラブは、1回生8人、2回生8人、3回生7人、4回生2人の計25人で活動しています。イベントや演奏会も充実しており、毎年12月に「なら100年会館」で定期演奏会を行っています。今年は12月20日(土)を予定しています。

## 部員への感謝の気持ちを持って



教育学部 学校教育教員養成課程  
身体・表現コース 3回生  
大阪府立狭山高等学校出身  
ギターマンドリンクラブ 部長  
かわぐち ひろ ほ  
**川口 浩穂** さん

私たちギターマンドリンクラブは、5月に新入生を迎え、普段はパート練習や合奏などを通して楽器の演奏を楽しみ、練習に励んでいます。部員は、ほとんどが楽器初心者からスタートしました。私もそうでしたが、練習をすればするほど弾ける



山田ホールで行われた謝恩会での演奏

ようになり、合奏でみんなと音楽を楽しめるようになり、さらに演奏会に来てくださるお客さんに演奏を聴いていただくことで、どんどん楽しくなっています。

ほとんど世間には知られていませんが、マンドリンオーケストラのために作られた曲というのは多数存在し、どれもマンドリンオーケストラの音色や編成を生かし、弾いている人も聴いている人も楽しめるものばかりです。演奏会では、何よりもお客さんが楽しめる曲選びや組み合わせ、演出を心がけています。

春には他大学との合同演奏会、謝恩会、新歓コンサート、夏にはオープンキャンパスや夏合宿、秋は学祭コンサート、そして冬には定期演奏会などがあります。

私がこの部活に入って一番感じているこ



夏合宿の練習風景

とは、私たちが良い演奏のために練習できているのは、いつも誰かの力があってこそだということです。部活として何か活動をする度に、必ずその手配をする人が存在します。仕事を部員で分担し、誰かに負担がかかりすぎないように、そして、誰かが私たち部員のために何かをしてくれたときには、いつも言葉で感謝の気持ちを表すということを心がけています。みんなが気持ちよく部活動ができるように部員が行動してくれているので、毎年イベントを成功させることができ、反省を次に生かすことができています。今年も、ひとつひとつのイベントを成功させることを目指して、部員一同、頑張っていきます！

## 活躍する奈教生

## 硬式野球部

- ◆ 近畿学生野球連盟春季リーグ戦 Ⅲ部優勝 Ⅱ部復帰

主将 たけなか としひろ  
竹中 俊洋

(教育部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻 保健体育専修 3回生  
奈良県立平城高等学校出身)

前回の秋季リーグでの3部降格の悔しさをバネに、チームで新たな目標を掲げてオフシーズンの練習に取り組めた結果だと思っています。



これから毎日野球  
ができることに、そして  
周りの人々に感謝の気  
持ちを忘れずに練習に  
取り組みますので、引き  
続き応援よろしく願  
いします。



## 女子ハンドボール部

- ★ 関西学生ハンドボール連盟春季リーグ戦 2部優勝(全勝！)

主将 いのうえ きこ 井上 貴子

(教育学部 学校教育教員養成課程 教育発達専攻 心理学専修 2回生  
大阪府立寝屋川高等学校出身)

厳しい試合もあり、悔しい  
思いをしましたが、すべての  
試合を勝ち抜くことができ、  
大変うれしく感じています。

日頃からたくさんの方々に支えていただき、感謝しています。次のリーグに向け、全員が成長していけるよう日々の練習に励んでいる最中ですので、応援のほどよろしくお願いいたします。



1月31日



交流会で話し合ったそれぞれの夢を発表

## 特別支援学校と協働して大学講座を開催

奈良県立奈良東養護学校と協働して「保護者と生徒のための大学講座」を開催しました。

この講座は、玉村公二彦教授（特別支援教育）と同校が、企業就労や自立した生活を支えるため、在学中に身につけておくべき力や学校及び家庭の役割、障害者を多数雇用している企業の

思いや就労している人たちの生活について学んでもらうと同時に、大学の雰囲気を経験することで生徒の意欲を高めようと企画し、実施しました。

外部講師による就労セミナーや本学学生との交流会が行われ、参加者は有意義な時間を過ごしました。

2月13日



協議会の様子

## 奈良県教育委員会との連携に関する協議会を開催

本学と奈良県教育委員会は、連携協力の円滑な実施を図るために、平成15年度以降毎年協議会を開催しており、今回は奈良県教育委員会が当番となり開催しました。

本学からは長友学長をはじめ26名、県教委からは富岡教育長をはじめ15名が出席し、活発な意見交換が行われました。

3月3日



受賞者全員で記念撮影

## 平成25年度学生表彰式を開催

学術、課外活動及び社会活動等において優秀な成績を収めた5名の学生と2つの団体に学長表彰が、18名の学生と4つの団体に学生委員会委員長表彰が授与されました。

長友学長より「これから先、落ち込んだり壁

にぶつかりそうになったりしたときには、これまでの努力を思い出して欲しい」との祝辞があり、受賞者はこれまでの努力を思い出し、喜びに浸っていました。

4月2日



協定書に署名後、握手する長友学長（左）と松長校長

## 奈良県立山辺高等学校と連携協力に関する協定を締結

相互に連携協力することにより、教員の資質の向上及び教員養成の充実を図るとともに、教育上の諸課題等に適切に対応し、双方における教育や研究の充実及び発展に資することを目的に、山辺高等学校と協定を締結しました。

これまでもすでに、大学教員や学生による出前授業や、山辺高校生が近隣小中学校で行っている出前授業への支援など連携協力を行っていますが、今回の協定締結により、より一層の連携協力が期待されます。

4月24日、25日



交流を深める留学生と日本人学生

## 留学生による自国紹介イベント「新世界への扉を開こう～留学生とのフレンドシップへの道～」を開催

本学在学中の留学生有志が、食堂前で自国を紹介するイベントを行いました。1日目は、地域ごとに設けられたブースをめぐるながらクイズやゲームを楽しむスタンプラリー、2日目は留学生手作りの出身国・地域の料理がふるまわれ、盛

り上がりました。

このようなイベントをきっかけに、留学生と日本人学生との交流がより活発になることを期待しています。

5月1日



協定書に署名後、握手する長友学長（左）と朝井校長

## 奈良県立青翔中学校・高等学校と連携協力に関する協定を締結

相互に連携協力することにより、教員の資質の向上及び教員養成の充実を図るとともに、教育上の諸課題等に適切に対応し、双方における教育や研究の充実及び発展に資することを目的に、青翔中学校・高等学校と協定を締結しました。

理数に関する事項を中心に、これまでも大学教員らによる出前授業など連携協力を行っていますが、今回の協定締結により、今年4月に開校した併設中学校も含めて、より一層の連携協力が期待されます。





## 附属幼稚園 2月27日



### ユネスコクラブの学生さんが『鹿』について教えてくれました

奈良に住む附属幼稚園の子どもたちにとって、鹿はとっても身近な存在です。そんな鹿についてもっと知ろうと、年長児の“きぐみくらぶ”の時間に、大学のユネスコクラブの学生に『しか』の話をしてもらいました。学生が子どもたちにわかりやすいデジタル教材を製作し、楽しくクイズ形式にしてくれ

たので、子どもたちも喜んで参加していました。特に「鹿は何故、奈良に住むようになったか」という神話からのお話をわかりやすく、劇にして演じてくれたので、小さな子どもたちにも理解することができました。大学附属の良さを生かし、学生との楽しい接点を今後も増やしていきたいと思っています。

## 附属小学校 5月22～23日



### ヒロシマ修学旅行―被爆の事実と人々の願いを知る6年生

広島市出汐町に、厚さ約5mmの鉄板の窓が規則正しく並びレンガ造りの大きな建物が残されています。先の戦争中に軍服などを製造していた旧広島陸軍被服支廠跡です。

今、窓の鉄板は、建物の内側へ向けて一様に凹んでいます。ひどいところでは10cm近くもです。69年前、ここから南東約2700mの地で炸裂した原子爆弾の爆風によるものです。

15歳のときにこの場所で被爆された中西巖さんは、「そのとき…、わたしは…、ここで…」とゆっくりと子どもたちに語りかけられます。「ここで…」「そこに…」と言われるたびに子どもたちはその方に目をやり、被爆直後の惨状を想像していきます。

事実と被爆者の願いにふれることで、子どもたちの内に平和への願いが芽生えることを望みます。

## 附属中学校

### 附中ESDの中核としての学年宿泊行事



附中の5月は宿泊行事の準備と実施、まとめに追われます。1年は曽爾高原での野外活動を通して、附中での三年間を共に過ごす仲間としての連帯感を高め合いました。2年は鳥羽市答志島での臨海実習です。初日の漁家訪問では、様々な漁法、漁家の暮らし、環境の変化、仲間とのつながり等、漁師さんから貴重なお話をうかがいました。ESDでは「将来世代への責任感」、「地球の環境容量を理解する力」を培うとされますが、漁師さんのお話はどれもこれらにつながるものでした。翌日は理科の磯観察を行い、各班のテーマに沿ってヒトデや貝、海浜植物などを観察し、スケッチ等を行いました。

3年の沖縄修学旅行では、附中のESDで特に大切にしている「いのち」「平和」というテーマに迫る学びを企画しています。初日は平和祈念資料館見学、ガマの体験、平和集会、戦争体験者の方のお話等、沖縄戦の実相に近づくための取り組みを行い、2日目は現地学生ガイドと共に、那覇から読谷までの戦跡や基地などを巡りました。ESDで重視する「人間の尊厳はかけがえがない」という価値観が戦争ではたやすく踏みじられること、また「自分で感じ考える力」「問題の本質を見抜く力」「現実的な課題に取り組む」などのESDで育みたい力や学びの手法が沖縄で培われたように思います。

# 奈良に息づく仲間たち



【自然環境教育センター】  
<http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/>

自然環境教育センター  
准教授 辻野 亮



## 実習園のキジ

大学本部から10分くらい南に歩いたところに奈良実習園があります。実習園では、田畑を授業・実習に用いているだけではありません。田んぼと畔の雑草は共に日本の文化に深く根差した大切なものですから、実は畔や空き地に生育している雑草もいくつかの授業では立派な教材として利用されています。そういうわけで部分的に草刈りを控えていました。すると、今年の春はおもしろいことが起こりました。雑草の草叢にキジが卵を産んだのです。雑草を残し



▲水が満たされつつある実習園の田んぼ



▲キジの卵

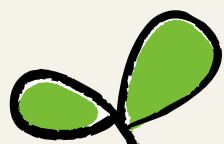
ていた思わぬ効用です。

雌のキジは全体的に薄茶色の地味な色合いですが、雄のキジは赤い顔と輝くような濃緑色の体、薄茶色の翼と尾羽をしており、その愛嬌ある姿から桃太郎や「雉も鳴かずば」でよく知られています。昔から里近くの農耕地や林などに棲息しているので、キジが「ケン、ケン！」と鳴いているのを聞いたことがある人も多いはずですよ。

雑草の草叢を残すことで、キジだけでなく他の生き物にとっても住処を残すことができたと思われます。実習園では6月初旬の田植えを経て少し雑草を刈ってしまいましたが、トカゲやカナヘビ、カエル、さまざまな虫の気配は感じられ、生き物の賑わいは今も衰えを知りません。



# 奈良 教 生 に



## 聞きました!

vol.11

### 新入生に聞きました 「4年間でやりたいこと」

学生時代にしかできないことがたくさんあります。有意義な4年間を過ごすためにも、しっかりと目標を持ち、取り組んで行きましょう。皆さんの取り組みを、大学教職員一同応援しています。

国内、海外問わずボランティアに行き世界のことを知り、社会科の教員になったときに生徒達に伝えられるような知識を蓄えたい。

あわ ち はる  
粟生 千晴さん(社会科教育専修)

教師にはいろいろな知識が必要だと思う。時間に余裕のある学生のうちに、日本全国や世界の観光地、世界遺産を巡って知識を蓄えたい。

い どう ち り  
伊藤 壘さん(理科教育専修)

ボランティアやスクールサポートに参加し、子どもとの接し方を実際の現場で学びたい。そして、子どもたちから好かれ、尊敬されるような教師になりたい。

お お し ろ こ う へ い  
大城 匡平さん(理科教育専修)

クラブ、アルバイト、ボランティアなどで、今までに経験していない新しいことに積極的に取り組み、理想の教師になれるように知識や経験を積み上げたい。

た な か け い こ  
田中 景子さん(家庭科教育専修)

将来どんな状況に置かれても対応できるように、勉強もボランティアも頑張り、たくさんの人と積極的に関わり、知識と実践力を身に付けたい。

ま つ う ら ま い  
松浦 真依さん(特別支援教育専修)

ボランティアなどで子どもたちや多くの人々とふれあい、より良い教師になるために必要な力をつけられるような大学生活を送りたい。

わた な べ は や と  
渡邊 勇人さん(数学教育専修)

勉強や部活、本を読んだり絵を描いたり、さらに一見無駄なことまで、全てにチャレンジし、理想の教師像に少しでも近づけるように経験値を高めたい。

さ か く ら  
坂倉 あづささん(美術教育専修)

生協学委や部活動、勉強などさまざまなことに取り組んでおり大変だが、後悔しないように4年間最後までやり遂げたい。またそこでの色々な人との出会いを大切にしたい。

き し も と こ う き  
岸元 洸季さん(国語教育専修)



弊誌に関するご意見・ご感想をお寄せください。  
QRコード対応の携帯電話にて  
アンケートにご回答いただけます。  
皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。



なつきょん's  
CLUB

広報誌づくりなど、広報活動をお手伝いいただける学生広報スタッフを募集しています。  
興味のある方は総務企画課秘書・広報担当まで、お気軽にお問い合わせください。



#### 奈良教育大学 広報誌『ならやま』

第46号 平成26年7月31日 編集/広報委員会 発行/国立大学法人奈良教育大学

3月・7月・10月各下旬発行

〒630-8528 奈良市高畑町 TEL.0742-27-9104 FAX.0742-27-9141 Email: kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp

※広報誌「ならやま」は大学ホームページからもご覧いただけます。

<http://www.nara-edu.ac.jp/>